

世界における国際観光客の動向

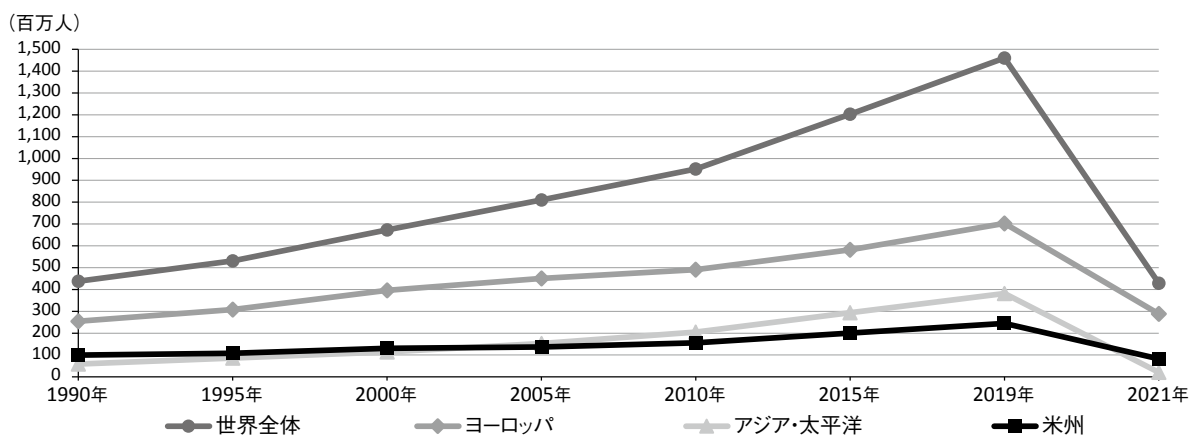
国連世界観光機関（UNWTO）では、毎年「International Tourism Highlights」により過去1年間の観光統計データを基に、国際観光の概要を紹介している。主な内容は、①国際観光における年間の主要動向、②国際観光客到着数¹（実績）、③国際観光収入（実績）、④旅行目的地世界上位国・国際観光収入上位国（10位まで）、⑤地域別実績と主な要因、⑥国際観光客送客数及び国際観光支出上位国（10位まで）などである。

「International Tourism Highlights」より、国際観光客到着者数の推移をみてもみる（図表）。世界全体で、1990年の4.4億人から2019年には146億人と約30年間で10億人以上の増加となり、長年にわたる持続的な成長が確認できる。地域別のシェアをみると、ヨーロッパが48.1%と全体の約半分を占め、次にアジア・太平洋が26.1%となっている。アジア・太平洋のシェアは1990年時点ではヨーロッパ、米州に次ぐ第3位の13.4%であったが、2019年のシェアは1990年対比で概ね2倍の第2位となっており高い成長性が窺える。なお、コロナ禍により2021年は全てマイナスとなり、特にアジアの減少が大きかった。

コロナ禍からの回復により世界的に移動の制限解除が進んでおり、中国等の動向次第ではあるが、日本のインバウンド需要も本格的な回復が見込まれ、元の成長トレンドに戻っていくものと思われる。但し、コロナ禍以前に問題となったオーバーツーリズムへの対応のためにも、足元で進む円安などを利用しつつ、サービス等の提供価値向上とそれに見合う価格の見直しなど高付加価値化への転換が望まれる。

（商工総合研究所 主任研究員 川島宜孝）

（図表） 国際観光客到着者数の推移グラフ



（出所） UNWTO「International Tourism Highlights2019年、2020年日本語版」、2021年はInternational Tourist Arrivals by (Sub) region による暫定値に基づき筆者作成

¹ 1泊以上の外国訪問客のこと。UNWTOでは観光客を「個人が普段生活している環境、訪問地における雇用を除く、1年未満のビジネス、レジャー及びその他のあらゆる目的で訪問地を1泊以上滞在した者を観光客又は1泊以上の訪問客」と定義している